

モラロジー 道徳教育

～知徳一体の教育をめざして～

No.160

- 不登校、問題を抱える子どもたちと富士山に登り続けて15年 大久保俊輝
- 群馬県富岡の養蚕を障害者が担う 中村 淳
- 子どもたちに問題解決能力をつけるピア・サポートに、今こそ光を当てる 山口権治
- スポーツによる人格形成と人材づくり 山川達也
- 道徳科の授業づくり 広中忠昭
- 幼稚園の道徳教育実践記録② 岡本美佳
- 学校のちょっといい話・エッセイ

編集・発行 公益財団法人モラロジー研究所
生涯学習本部 学校教育センター

〒277-8654 千葉県柏市光ヶ丘2丁目1番1号
電話 04-7173-3219 ファックス 04-7176-1177



たくましく生きるための危ない体験

一般社団法人未来へのメッセージ舎 代表 島内 行夫
元ベネッセ教育研究所 代表

私の小学校時代の思い出だが、破天荒な教師がいた。毎日大型バイクで通勤していた。ちようど私の通学路と先生の通勤路が同じだったこともあり「おい乗れよ」と、よく乗せてもらった。砂利道では体が大きくバウンドし、後ろの握り棒を必死でつかんだ。怖かったがスリルもあり、バイク音が後ろから近づいて来るのを密かな楽しみにしていた。

最近はどうした教師は皆無だろう。理由としては、教師、親、地域の関係性が半世紀前とは全く変わったからである。現代にこういう教師がいたら、地域の日撃者が写メールし、それがテレビで放映され、教育委員会が謝罪会見を行うという一連の展開が見えてくる。

最近では家庭も学校も、子どもの事故をゼロにするという理由からか、危険が予想されるものから子どもを隔離する傾向にある。具体的には近所の公園から遊具がどんどん撤去されている。市役所の公園課に尋ねると、遊具の腐食が基準を超えているからだという。丈

夫な鉄骨製でも腐食が進んでいるように思えなかったが、要するに、万が一がでもされたら公園の管理責任が問われるからである。どうも全国的な傾向のようだ。

近所の公立中学校の例だが、昼休み、校庭に生徒を一人も見かけない。不思議に思い、知り合いの教師に聞いたら、なんでも生徒会が昼休みは校庭で遊ばないことを決定し、学校もそれを了承したという。そのため昼休み中の事故やけがは少なくなったが、生徒はゲームなどに熱中しているという。

自転車は、転んだり擦り剥いたりしながら乗れるようになっていくことは皆経験的には分かっている。しかし、もしも大けがをしたら誰が責任を取るのだというところでみんな思考停止になっているような感じだ。

道徳教育はとかく規範意識や安全を語ることが多いが、子どもがたくましく生きるために、障害や危険をどのように教育の中に組み込んでいくかは、重要な観点ではなからうか。